

様式1 令和7年度 山梨県立日川学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	文武両道の実践を軸に心身を練磨し、高い知性と教養、たくましい身体と精神力、豊かな感性をあわせ持つ生徒を育成する。
-----------	--

山梨県立日川高等学校校長 山田 芳樹

本年度の重点目標	1 文武両道を実践する強い意志を育み、確かな学力の定着と指導と評価の一体化に努めた授業実践と更なる改善を図る。
	2 生徒それぞれの個に応じた進路実現に向け、目標設定を明確にさせ、きめ細やかなキャリア教育の実践に努める。
	3 規律ある学校生活をとおして、自らを律し行動できる力、規範意識や高い倫理観の育成を図る。
	4 誰もが安心して、誰からも信頼される学校づくりの推進に努める。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価					
番号	評価項目	本年度の重点目標	年度末評価(2月5日現在)		
			自己評価結果	達成度	
1	文武両道を実践する強い意志を育み、確かな学力の定着と指導と評価の一体化に努めた授業実践と更なる改善を図る。	生徒の多様なニーズに応じた自主自立した家庭学習習慣の確立や、適正な部活動の活動時間を確保する。	授業アンケート実施 学習記録の電子化 下校時間の徹底	B	・多くの授業に積極的に参加(96%)し、学習への取組を肯定的に評価した生徒は約66%であり、授業の予習・復習や目標とする家庭学習時間を確保できた生徒は約68%など数値は向上している。 ・生徒はICTを積極的に活用しているが、Classi活用も含めて授業改善につなげている教員評価は若干下がった。 ・教員全体で各教科ごとに「指導と価の一体化」による研究を深め、授業改善への評価は高くはあるが、やや下がった。
		学習目標の明確化及び指導と評価の一体化に努め、ICTの積極的活用を行い、主体的対話的で深い学びの実現による確かな学力の向上を図る。	BYOD、大型モニターの活用 職員研修の実施 学力分析会の活用		
		授業改善につながる授業アンケートの実施や、未来を拓く生徒主体の授業づくりの分析も効果的に進行。	授業アンケートの分析による授業改善プロジェクトの有効活用		
2	生徒それぞれの個に応じた進路実現に向け、目標設定を明確にさせ、きめ細やかなキャリア教育の実践に努める。	サタデーサブリ・きずなの活用及びキャリアパスポート等による振り返りから主体的に進路を選択する能力を育成する。	Classiの有効活用とキャリア・パスポートとの関連付け	A	・学校行事や特別活動等において多くの生徒が将来とのつながりを見通しながら主体的に学ぶ意欲を促進させるとともにキャリア形成の支えとして活用している。 ・数ある進路情報等を収集し、活用しようとする姿勢がある一方で、講演会等、進路行事で積極的に情報を得る等、具体的な行動に結びつかない生徒もいる。 ・SSH課題研究に主体的に取り組み、自ら課題を発見し積極的に活動することによって、調整力や課題解決能力の育成につながっている。
		進路希望に応じた情報発信と意識の向上を図り、大学等との連携を通じたサポートを行う。	県内大学との連携事業 全校体制による進路指導の実施		
		デジタルポートフォリオを有効活用し、SSH課題研究への取組を通して主体的に進路を選択する能力を育成する。	デジタルポートフォリオの活用 SSH課題研究の全校指導		
3	規律ある学校生活をとおして、自らを律し行動できる力、規範意識や高い倫理観の育成を図る。	学校行事や課外活動、部活動をとおり、主体性、協働意識を育み、道徳教育を推進する。	道徳教育指導計画の作成及び共通理解 家庭と連携した取組	A	・強歩大会、新入生オリエンテーション、部活動において、人としての生き方や在り方について、道徳教育指導計画に則して考えさせる契機となっている。95%を超える生徒が肯定的な評価をしている。 ・豊かな心の育成や規範意識を高める教育に関しては約90%の保護者が肯定的な評価をしている。 ・小中学生との交流・連携を図ったSSH事業をはじめ各種ボランティアや地域行事への参加を通じて他者を思いやる心や社会貢献の意識が高まっている。
		地域や関係団体と連携を図り、他者を思いやる心と社会貢献の精神を涵養する。	地域行事・ボランティア活動への参加 異校種間交流の推進		
		生徒が抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みや、質の高い学校教育の実現を図るため、学校運営協議会との連携を深め、地域の人材を有効活用することにより、働き方改革につなげる。	学校運営協議会との有機的な連携 地域人材の発掘		
4	誰もが安心して、誰からも信頼される学校づくりの推進に努める。	広報誌、ホームページ、学校ブログ等を活用して生徒も関わりながら、積極的な情報発信に努める。	広報誌、ブログ等での情報提供 定期的なHP更新	A	・学校パンフレットをはじめ、ホームページやブログを使った情報発信、学校説明会等、広報に注力し、保護者や関係者から好意的な評価を得ている。 ・学校行事等に係る保護者の参加や協力を積極的にいただけている。フードドライブでは生徒・保護者や地域の協力を得る取り組みとして実施ができた。 ・災害時の防災計画を周知したり、防災避難訓練を実施したりし、避難経路の確認や、身近に起こり得る具体的な行動・対応学ぶ機会を設けている。
		PTA活動の様々な機会を生かして学校との連携を推進する。	広報活動及びPTAとの連絡の徹底 強歩大会への協力		
		災害や事故に遭遇した際の危機対応能力や危機管理能力を育成する。	避難防災計画の可視化 安全管理体制の徹底 保護者への情報発信		

学校関係者評価	
実施日(令和8年2月10日)	
評価	意見・要望等
3	・文武両道を実現するために、多くの生徒が部活動に積極的に参加し、教育課程や教科指導を通じた学力定着への取り組みもしっかり行われていることから、文武両道と学力定着への取り組みは高く評価できる。この伝統は生徒と先生方、保護者、外部委員や同窓会との連携・協働の賜物。一方、伝統だからではなく、何のために文武両道を実践するのかを、何をすれば文武両道になるのかを生徒が考える機会も必要だろう。・生徒自己評価用のシートの数値から、学習面の改善、学力向上の取り組みと同時に、時間の確保だけでなく、学習の質やシラバスの目標達成状況からの評価も必要はない。・進路実績を見ても、生徒達が主体的に頑張れるよう、先生方の働きかけが素晴らしいと感じた。
	・生徒の評価・点検シートでの評価項目で、評価されているので、進路指導、キャリア育成にしっかり取り組んでいると考えられる。・実際にどのようにきめ細やかに対応しているか、その結果や評価を適正に行い、限られたマンパワーのなかでも特色あるキャリア教育の実践を期待している。また、大学進学や就職だけでなく、どう生きたいかについて考えることも必要なのではないか。社会が変化している中、進路が描きにくいのではと懸念もしている。その中で、自分らしさを尊重してもらえる体験が、ぶれない自分を形成すると思うので、引き続き、熱心なご指導をお願いしたい。・日川高校の卒業生・関係者等となく職業紹介、失敗と成功とビジョン、等の取り組みがあると、日川の強みを生かせると感じた。
	・生徒達が校外であっても、挨拶や会釈を場に応じている。生徒の行動から規律、規範意識、倫理観の育成に努めていることもうかがえ、人として社会に通用するよう先生方の日々指導や生徒の意識がしっかりしていることが見て取れる。・強歩大会や新入生オリエンテーションといった特徴のある諸活動の中で、規範意識や高い倫理観が養われていると考えられる。よく、教育されていると思う。学内のルールを守ることだけが規律ではないこと、学外での交通ルールやSNSの書き込み、思い込みなども含めて、自分のメタ認知がはたらくような取り組みを期待する。・規律と学校自治のバランスを重視した校風づくりを進め、基本的な生活習慣や法令・公共マナーを遵守できる生徒の育成をお願いしたい。
	・学校の安全・安心に関する基本方針は明確で、危機管理、健康・安全体制、相談体制も概ね機能している。今後も、安心して信頼される学校づくりの推進に向けた取り組みを期待する。・校訓や教育方針にもとづいた教育活動が行われており、一人ひとりの生徒を大切にする姿勢の下で、災害対応や命を大切に育む心の育成にも取り組んでいる。安心して信頼できる学校づくりが着実に推進されていると評価できる。・サテライト桃源荘道路沿いのフェンスに、日川高校頑張れとの看板があり、地域との密着感ができている。今後も地域とのコミュニケーションを推進して頂きたい。日川高校のウェブサイトには、更新が遅いものがある。このような状況は信頼感の低下を招きかねないので、早期に解消すべきだ。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。